



出会い

第六十七号平成三十年九月

健康道場サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町3-6-19
T/F : 078-802-5120

アマテラス時代 関東に高天原はあった

清水 正博

今年は6月からは予定外の企画が続ぎ、忙しい日が続きました。6月22日の東梅田教会での津村さんのピアノリサイタル「魂の帰還シリーズ第2弾」は保江先生が来場者の魂を宇宙旅行にお連れし、宇宙の秘境を見せるという壮大な仕掛けで、北村好孝先生の詩とイラストによるプロのデザインのプログラムも準備され、選曲がなんとベートーヴェンの運命と来場者をつなげる素晴らしい展開になりました。この不思議な取り合わせの3人の創造的リサイタルは何かベートーヴェンの思いを引き出しているように思いました。

●7月1日はカタカムナの土居正明先生と神戸平和研究所の袖浩二先生と山陰神道創生神楽の表博耀先生が、今年はスペインのバルセロナと神戸市の友好25周年記念なのでモンセラート寺院でお神楽を奉納するので、そのツアーの宣伝をしたいと来られました。

袖先生は日ユ同祖論の第一人者。ユダヤと日本の関係を調べるために聖書から解明して博士号を取られ、モルドバ国立教育大学で名誉教授を授与され、神戸平和研究所を創設され、世界中を飛び回っておられるかたです。

表博耀先生は作詞・作曲もされ、出雲観光大使として日本国内を中心とした聖地での「創生神楽」の奉納をされています。お父様に3歳から修験道を教わり、山伏が日本人の原点だったという縄文の歴史や、西宮エビスとイスラエルのエブス人について語られ、土居先生は東経135度が世界の中心になる神戸と世界聖地になる六甲山の関係、玉置、熊野、東大寺、京都御所、若狭常神岬の祈りのラインについて語られました。

私は20歳の時メキシコでピカソの「青の時代の裸体画」を見て強烈な印象を受けた思い出があり、この絵に匹敵するピカソの作品をみないと思っていたので、ピカソ美術館やサグラダファミリア、保江先生の冠光寺流合気にご縁のあるモンセラート寺院に行けるなら良い機会だと思い、ツアーに参加することにしました。

●7月7日の豪雨の日、友人宅に見つかった大切なイワクラのお掃除とお祓いのご神事に出かけ、無事復活の儀式を終了することができました。このお宅はカタカムナの檜崎皐月と平十字とご縁のあるイワクラが長い間封印されていた

ると知っていたので、カタカムナ女性軍団にお願いして土砂降りの中強行したのです。ですから、いずれ何か面白いことになればと期待しています。

●7月8日は矢作直樹先生の健やか塾、こころ塾が開催されました。今回で第三回目です。先生も塾生と自由に意見を交わす雰囲気が生まれ面白くなっています。健やか塾はいかに靈性を高め健康で充実した人生を生きるかがテーマ、こころ塾は世界の表に出ない諸問題にどう対処するかを語られます。矢作先生もカタカムナの言霊の力を理解され、日本が「言霊の幸福国」として復活する意義を研究されていて、面白くなっています。

●7月16日は赤尾由美さんの講演会。戦後右翼の政治家として活躍した伯父様の赤尾敏氏の伝えたかったことを著書「愛の右翼 赤尾敏」に書かれ、矢作先生や保江先生が立候補された政党「日本のこころ」から昨年の衆議院選挙で出馬されたり、国防女子の一人としてネット上でよく活躍され、山登りやマラソンで体力もあり、女性らしくバレエで白鳥の湖も踊れ、まさに今求められている女性の時代のリーダーになるお役目のある方だと思いました。

ですから、赤尾さんになぜ神戸が世界の中心なのかとか、カタカムナの聖地六甲山には役行者、空海、聖徳太子とご縁のある場所が沢山

あること、瀬織津姫を祭る広田神社、西宮エビス、甕岩、六甲ヒメ大善神社のこと、その里宮である八幡神社の森を隔ててあるサラ・シャーンティには全国から大切なお役目をもった不思議な人がいっぱい集まって来る場所だと知っていたので、講座の前に六甲山に登り、ガイドを大江幸久先生にお願いして、詳しい解説をしていただきました。

地球環境の改善や世界平和を実現するのは日本の使命だと多くの人が語っています。田中英道氏の著書「日本の歴史 本当は何が凄いのか」の裏表紙「日本には大変なショックを受けました。日本は私を目覚めさせたのです。西洋人のキリスト教や古典学に依拠しないで、立派な文明を持っている国があったからです。どちらを向いても道徳的一貫性、正義感、精神的な成熟を示す人々に出会いました。日本という国は、その世界地図に占める小さな位置よりも、はるかに大きな存在です」と人類学者マライーニの言葉を紹介しています。いったい日本とはどんな国なのでしょう、それが最近の様々な研究で明らかにになって来ています。

毎年8月に私たち日本人が何気なく思うことですが、広島、長崎の原爆投下と昭和天皇が終戦を英断された8月15日の終戦記念日といった一連の流れがお盆の時期とぴったり重なったのも偶然ではありません。この8月の一連の行事は神計らいのように永遠に繰り返され、私た

ちの表に出ない恨み辛みの想念がアメリカに流れて行き、そして世界の人にも影響を与えています。こうして反米意識が未来永劫生まれるのですが、この時期に原爆投下を選んだアメリカも、こんなことになるとは想像できなかったのでしょうか。いずれ世界に向けて謝罪する時がくるのでしょうか。

子供の頃お盆の時期、信州の田舎で父がいつも白樺の皮を燃やし迎え火、送り火をして、ご先祖様を大切に祀ることを教えてくれました。精霊が道に迷わず帰って来ることができるよう13日の夕刻に盆提灯を灯し、庭先で迎え火をする。14、15日は家に精霊はとどまり、16日の夜は盆踊りをし、送り火を焚き、霊を送り出す。こうしてお盆になると何億兆というご先祖様の精霊が国土に集まって来るのですから、日本神界は大変混雑しているでしょう。

この日本神界のことを柳田国男は「先祖の話」のなかで「日本人の死後の観念、即ち霊は永久にこの国土のうちに留まって、そう遠方へは行ってしまわないという信仰が、恐らくは世の始めから今日までかなり根強くまだ持ち続けている」ということである」と説明しています。この日本的なあの世の世界のことを量子力学の保江邦夫先生が科学的に語られています。何度も書いている「素領域理論」がそれですが、詳しくお知りになりたい方は先生の著書『神さまの覗き穴』をぜひお読み下さい。サラシャーンテ

イの保江邦夫先生のDVDもお薦めです。矢作直樹先生の講座でも、分かりやすく解説されていますのでお薦めです。

九州の弊立神宮は1万5千年の隠れ宮と言われていますが、鹿島と香取神宮も同じくらい古いでしょう。それくらい長く一度も侵略を受けず信仰を守ってきたのですから、ご先祖様も安心して留まっておられる国土なわけです。そのご先祖様数を1万5千年で計算すると気が遠くなる数の魂が日本神界を形成しているのですから世界最強です。これが何度も戦争を繰り返してきたキリストやイスラムのヒマラヤ神界、アルプス神界でも魂が戦っているのでしょうか？日本でも大陸から来た難民が弥生時代以降に争った歴史があった時代はどうだったのでしょうか。その辺の疑問に答えてくれたのが美術史家で歴史家の田中英道さんの著書『日本の起源は日高見国にあった』です。

P19より抜粋「日本の中心は日高見国として関東・東北にありました。高天原は関東であり、アマテラスは関東を本拠とする太陽神であり、国譲りは関東勢力による統一事業であり、天孫降臨は関東から西国にむけて行われた遠征事業であり、神武天皇の東征は九州を起点とする戦略をとった関東勢力による再統一事業と思われまふ」と古事記に登場する神話の神々が縄文時代に実在する人の歴史だったと熱く語られる本なのです。

縄文中期の紀元前5千年ころ、関東・東北は日高見国として大きな文明を築いていたそうです。この頃は長野以北に人口が集中していて、縄文土器や土偶の90%以上が発見されているのですから間違いないですね。弥生時代になって中国大陸から難民が押し寄せてきて、西国の治安が乱れてきたので、日高見国が治安を守る天下統一のため日高見国から熊野や鹿児島に船で遠征軍を送った、これが天孫降臨だったわけです。最近では3万年前の旧石器時代の遺跡も見られて、神武天皇以前のウガヤフキアエズ朝だけで5万年の歴史があると書かれている竹内文書も無視できなくなりました。

*カタカムナと神道

5万年もの継続性のある国だからこそ個性的な神道の精神文化が生まれてきたわけですが、それを読み解くためにカタカムナの形の世界が必要となります。お神楽や能、生け花や日本庭園なども日本の個性的な美意識がいっぱいあります。日本の大工道具や刀は引く力を使います。古武道でも型稽古を大切にして極意を伝承するのも独特です。こうして文字ではなく形を受け継ぐのが縄文時代に生まれた神道であり、全国に19万もあった神社がその文化を守ってきたのです。

次に田中英道著『天孫降臨とは何であったか』p104から引用「神道系の文化は「かたち」

を感じる文化です。仏教系の文化は「言葉」を使って思う文化です。日本文化にはこの二つの文化があり、特徴的なのは「かたち」の文化つまり神道系の文化、すなわち東の文化には長い期間、それを言葉で書き表す習慣がなかったという事です。縄文土器の豊かさは「かたち」だけであらわされています」。現在も日本の西と東では様々な生活習慣の違いがありますが、それは東は神道系、西は大陸の影響のある仏教系だったということです。古事記の時代まで文字を必要としなかったのは、文字不要の縄文神道の形の文化があったからなのです。だから私が出会った杖道は天真伝神道夢想流と言いつつ、年に3度以上は神社で奉納演武をしてきましたので、自然に仁義礼智信の5常を守る武士道精神を授かったのだと後に分かりました。

この形の文化を守る古武道に偶然出会えたのは、若い時にメキシコと米国を旅したおかげですから感慨深いものです。植民地化によって砂漠化したメキシコのピラミッドやアステカ遺跡を見て誇りを失ったインディオたちの姿が気の毒に思い、アメリカを旅して、大きな車でガソリンをばら撒くエネルギー浪費型の社会のひどさ、だだっ広いだけで伝統的文化が何もない貧しい国。フォークソングで親しくなった共和党に所属する青年が、元大統領のレーガンがベトナムに原爆を落とせと言うのを支持するということで怒りをぶちまけたことがあります。毎週教会に行つてどんな話を聞いているのかと疑問に

思い、なんと自己中心的で殺風景な国だと分かったおかげで、日本人の美意識の奥深さを自覚できたのです。

綺麗に掃除をして守られている神社やお寺、自然が豊かで美しい山、川、海、食事の質の高さ、トイレの清潔さ、犯罪が少なく安全、時間通りに動く交通機関など、きりが無いほど日本は最高だと満足感に浸り、いかに充実して日本で生きるかを考え60歳の定年まで会社勤めしつつ、古武道や陶芸、音楽などの趣味に打ち込むことができたのです。交通費節約のため毎日自転車かランニングで通勤し、体を鍛え、新城さんの石庭に導かれてユタさんのいる宮古島に12回通い、トライアスロン大会に10回連続出場し、神道とカタカムナに繋がったのです。

*古武道とカタカムナの関係

開祖・夢想権之助は香取神道流剣術を極め、各地を遍歴、一度も負けたことがなかったが、慶長10年6月播州明石において宮本武蔵と試合をし、武蔵の十字留に制せられ、押すことも退くこともできず敗れた。その後諸国を遍歴武者修行の末、大宰府天満宮神域に連なる霊峰宝満山に登り、神武天皇の御母君にあたる玉依姫を祀る竈門神社に祈願すること37日満願の夜、夢の中に童子が現れ「丸木をもって水月を知れ」と神託を授かった。

権之助は剣によって得た真理をすべて応用し、創意工夫、四尺二寸一分・直径八分の丸木を作り、槍・薙刀・太刀・体術等の特徴を総合的に取り込み、杖術を編み出し、遂に宮本武蔵の十字留を破ったといわれる。そして権之助は黒田藩(福岡)に召しかえられ、杖術は藩外不出の御留武術として継承され、明治維新により藩外不出は解禁され、東京をはじめ全国に伝えられ。現在は警察機動隊等の逮捕術に導入されており、全日本剣道連盟でも受け継がれています。

ですから、フツヌシ、タケミカツチという武道の神様の元に編み出された鹿島神道流、天真正伝香取神道流の精神が受け継がれ、玉依姫のご神託を授かった神武が杖道なのです。私はこんなすこい武道と出会えて長くご縁を頂け幸せだと思つていますが、大切な国の宝ですのもっと普及に力を入れるべきだと思います。オリンピック競技の稽古の合間に採用すれば、身体論としても有意義なのに勿体ないと思います。ここで僕の人生に多大な影響を与え、現在の活動の支えとなっている権之助の言葉を紹介します。

*我が国においては剣術のみが武術であるとの考えが主流になつている。しかし、人を殺さぬことを真理とする杖こそが武術の大本となるべきである。その昔、天地開闢のとき、イザナギ、イザナミの尊が「天の矛」をもって大海原をかきまぜ、この大八州(日本国)を創られた。この「天の矛」こそが杖であり神国日本を代表するもので

ある。日の神である天照大神も三剣を帯し武をたひへん尊ばれた。

仁、義、礼、智、信の道徳を守ることのみでは國を治めることは出来ない。武も必要であり武をもつて國を治めるには、術が必要である。よつて、ここに一本の杖を用いた術を創立し志を持つ人々にこの武術を伝えるものである。剣をもつて人を殺すことが武の本来の道ではない。杖を持つ者は、人を殺さず任を果たし万事を得ることが出来る様にすべきである。

＝ ＝ ＝

神道夢想流杖道は世界に広がりつつあります。同時にこんな素晴らしい型稽古で武士道精神を伝えていくわけです。戦後日本の精神文化を弱体化するためにGHQの占領政策をおこなった様々なことも無駄だったわけです。例えばキリスト教の布教ですが、私が幼児の頃にカソリックの教会へ行き、小学校ではYWCAの子羊会やYMCAのキャンプに参加して、20歳の頃まではキリスト教に好感を持っていました。が、メキシコに行ったおかげで、愚民化を目的とした布教による植民地の酷い実態が分かりました。

日本ではキリスト教の学校も沢山あるのに、信者の数が1%を超さないのは日本の文化力なのです。2015年7月にやっとボリビアでローマ法王フランシスコは中南米征服の歴史を謝罪しました。アルゼンチン生まれのチェ・ゲバラは中南米諸国の中で聖人のように慕われています。だから改革を急ぐ教会は今回の法王にア

ルゼンチン出身のフランシスコが適任と選んだのでしょうか。

欧米の植民地政策で多大な被害を被ってきたアジア諸国も、日本のおかげで戦後独立出来たことに感謝しています。しかし戦勝国のアメリカにとつて戦後直ちに驚異的な経済復興を達成し、さらに精神的文化的にも世界のモデル国として評価されて親日国家が多く生まれたことに恐れをなし、それで日本潰しに躍起なのです。戦後50年ころから慰安婦問題や南京虐殺の問題を声高に叫び、中国、韓国人にお金を使って日本人への怨恨を助長しています。アメリカはあの手この手を使って日本イジメをする国だと分かって逆らわず、カタカムナ意識を黙々と育てていきましよう。

*カタカムナと神道の形の文化

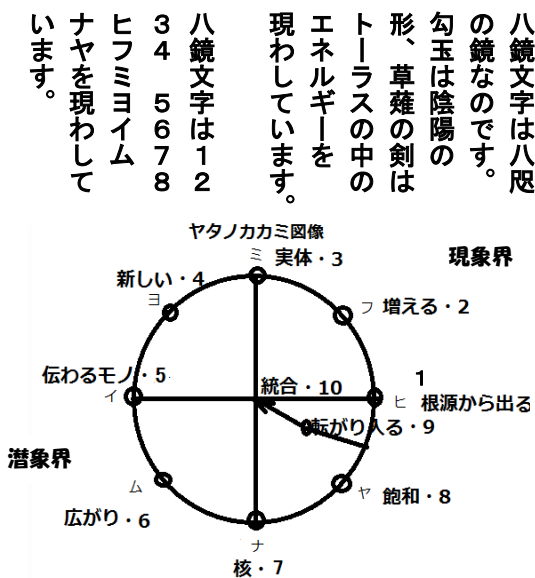
杖道との出会いもカタカムナとの出会いも偶然ですが、面白いことに両者は一つだったので。最近登場した丸山アレクシークリニクスの丸山修寛先生のカタカムナ治療法、さとう式リンパケアの佐藤青児氏、「カタカムナ」で解く魂の合気術の大野朝行氏など健康法や身体論など、カタカムナが復活の時代に入りました。丸山先生はカタカムナのウタヒ五首、六首、七首を唱え、とすべての病気が治ると言われています。今後も続々と面白い人が登場すると思えますので時々カタカムナで検索してください。これからどう発展していくか興味深いことなのです。

日本語のルーツとその特異性の解明は謎のままです、一方でカタカムナが注目されています。武道のみならず庭園、絵画、音楽、芸能、工芸、建築、その道具類など様々な領域で日本は独自の技術を編み出しています。合気道、レイキや氣功の目に見えない力、不思議な体術や治療など科学で証明できないものが日本には多くあります。それがカタカムナの潜象物理学や身体論です。古武道はフツヌシ・タケミカツチの神代の時代からあるわけですから、その根底に古神道を生んだカタカムナがあったのです。

ここで吉野信子先生の研究を紹介します。

「日本語48音には宇宙法則があります。アマテラスの三種の神器がカタカムナ文字の形に現われています。」

八鏡文字の8角形構造



1から4までは潜象界、5から8は現象界を現わしています。

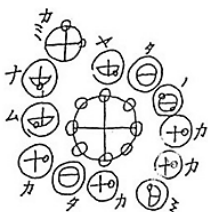
転がり入る9は中心で空となり、○チヨンになり、10で統合して無となり1に戻ります。そこには

般若心経の空と無の世界の教え、ひふみ九九算が隠されていたのです。正にカタカムナ文字が神道の「形の文化」の原点だったのです。

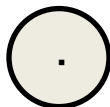
勾玉は陰陽を現わす



カタカムナ第2首
ヤタノカカミ
カタカムナカミ



形号の記号
八鏡文字の元素



草薙の剣のエネルギー体

八鏡文字は八咫の鏡なのです。勾玉は陰陽の形、草薙の剣はトラスの中のエネルギーを現わしています。

八鏡文字は12345678

ヒフミヨイム

ナヤを現わしています。

48音の思念表から導き出される宇宙の法則「法則1 トキとは、過去から流れてくるのではない。逆に「未来」から「今」を通して「過去」へと流れて行く。今の時点で次の未来は決まる。」

法則2 「言葉」と「思念」が逆の表現になる「現象」は「循環」している。「潜象」のエネルギーが

「現象」を引き起している。

法則3 語順には大きな意味がある。かつてに語順を変えて理解してはいけない。

法則4 思念に善悪はない。

法則5 同音意義は同じ振動数を持つため、必ず共通した同じ思念を示す。

法則6 清音は正を示し、濁音は反を示す。

法則7 思念は時空を超越する。

法則8 潜象(思念)が、宇宙の真の姿(実像)である。現象とは、潜象を写した「ホログラム」虚像にすぎない。

法則9 これら宇宙法則に外れる一切の例外は存在しない。

* 吉野信子オフィシャルサイトから引用です。思念表はそちらでご覧いただけます。

このようにカタカムナにより日本語48音に秘められたる力と人類に下ろされた原初の宇宙法則が明らかにされたのです。カタカナ、ひらがな、漢字、ローマ字、数字、絵文字を縦書き、横書き表記ができて世界中の言葉を含み込む力がある。人類創世の時期に宇宙の響きや自然の声から48の音を受け取って言語化した日本民族の文化が、何万年と継続して発展し続けてきている。だから地球上のあらゆる教えや習慣を自在に自分の国の文化として取り込んでしまう許容力があります。

世界中でこの言語を探しても日本語のような多彩な特色をもった言葉は見つかりません。檜崎皇月が出会った平十字という人は、仙人な

のか宇宙人なのかどこから現れたのか分かりませんが、カタカムナ文字のウタヒ80首を残して消え去りました。平十字は神様が宇宙人だったのか、きつと「日本語は宇宙法則を伝える神界の言葉だ」と伝えるために現れたのでしょうか。やはり日本神界だから起こりうることなのです、そうとしか他に考えられません。

そこに田中先生の登場です。フランスとイタリアで美学美術史学を学んで博士号を取られ、イタリア人に「日本の文化は西洋と異なった成熟した文明である」ことを教えられ反省され、日本の美術と比較して日本美術の独自性、文化の高さを研究されました。1万年も続いた長い縄文時代にひらめきや感性の形の文化が発展したので文字が必要なかった。西は大陸文化の影響で文字の文化が発展したという説に納得しました。田中先生はフランスで開催のジャポニズム2018でも活躍されています。お話はyoutubeで沢山ありますのでご覧ください。

西暦ADは非キリスト国家では最近ではbefore common era(共通紀元)が使われるそうです。国によって選んでいるようですが、世界の中心が東経135度に移動し、日本の時代が始まっているのですから、紹介してまず田中英道先生の歴史観を採用して、アマテラス歴3000年はどうでしょう。又は現在の西暦2018年に1000年足してアマテラス歴3018年にして、使い分けが楽で外国向けの時は1000年

引けば済みます。来年の次の元号に合わせて採用したいものです。勝手に使いまししょうか？

今号ではEMの凄い働きを紹介しております。このように酵母や微生物の日本の伝統技術にはカタカムナ潜在物理学の静電三法や木炭埋設など縄文からの文化が根底にあることが檜崎臯月によって明らかにされたのでしょうか。今後さらに解明されると、ますます面白いビックリするような技術が生まれてきそうです。

*本文中で紹介しました先生方のサラ・シャンティでの講座はDVDになっていきますので、詳細はホームページをご覧ください。

次に続くのは

- ① おおい原発のおおい町出身、徳庄博美さんの麗しの国・若狭より、その33 今回はEMによる獣害シャットアウトの報告
- ② 福島県南相馬の同慶寺住職田中徳雲さんからは久しぶりの近況とEM実践の話
- ③ 芦屋の村井和子さんからはEMによるイノシシが来なくなった話や京都で実践されている河川の浄化などのお話
- ④ 吉田博昭さんの伊勢便りNo.17 海ガメの話からその昔熊野の自然を守った南方熊楠の話とプラスチックの海洋汚染について

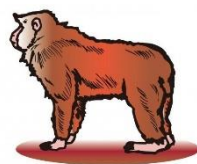
麗しの国若狭よりその33

驚異のEM結界による獣害対策の結果

徳庄 博美

今全国の農村は獣害の被害で悩まされています。私たちの若狭も例外ではありません。農家にとってはいまこの獣害が死活問題になっています。イノシシ、鹿、猿、カラス、小鳥、あらゆる農作物を食い荒らすのです。モグラが穴を掘って畑を壊すのです。猿は2〜30匹の集団でやってきます。しかも収穫間際の農作物を狙うのです。

ジャガイモが、タマネギが、果物が、明日が食べ頃だと思っていると、次の日の朝



食べられているのです。彼らも食べごろを驚くほどよく知っていますのです。ほぼ100%です。影も形もなくなるのです。食い残した皮だけが畑に散らばっている。大きな糞を土産に残して！小猿も可愛い、子鹿も可愛い。しかし今や農家にとっては彼らをかわいがるという気持ちの余裕はありません。憎しみの感情すら湧いてきているのです。猿を追いかおうとしても年配の方だと逆に猿が赤い顔で歯をむいて集団で威嚇してくるのです。そのためもう畑はやめたというと言う方も増えているのです。

獣害の被害はおおい町だけで年間約400万円でした。そこでおおい町は町内の全域の山

際に高さ2 mの金網柵を設置したのです。総経費18億円。原発立地位自治体だからこそ交付金を使って金網柵設置工事が可能だったのです。他の周辺自治体にはこのような金網柵はほとんどありません。

おおい町ではこれによって、鹿、イノシシの村落内への侵入と被害が大きく減りました。しかし柵を軽々と乗り越える猿、空を飛ぶカラスには全く効果がありません。各農家が対策として天井付きの網柵、電気柵を畑の周りに張り巡らすという方法で自衛するしか方法がないのです。しかしこの設置には数十万かかるのです。60万かかったという話も耳にします。

このような話を常に耳にしていましたので、何とか方法がないかと考えていました。そこへサラ・シャンティから大下先生の獣害対策のセミナーを行うと連絡を受けました。これは行くしかないと思い、参加させてもらいました。

お話の内容は、ペットボトルに海水、木炭粉、EMX溶液、EMパウダーを入れて溶液を作り、それにEMシール、ニッケル円盤電池を貼り付けエネルギー発生装置を作り、それをオレンジ色のビニール紐でくくりつけ、そのビニール紐で当該の畑の周囲を囲んで境界をつくるというものです。そうするとマイナスの潜在電圧がうまれ獣害を防ぐというものでした。話の中の潜在電圧や整流、量子という概念が始めて聞く内容で理解できず頭の中に???が飛び交いました。

しかしいくつかひよっとして思いあたるこゝとがありました。かつて若狭の森林の会というのをたちあげて活動していました。当時若狭の森に猛威を振るっていたコナラ枯れを防ぐために、若狭全体の森に土地のエネルギーを高くすると言うセラミックを設置し広範囲の境界を設置したことがあったのです。その結果次の年からコナラ枯れは無くなり、山の植生が元気になったのを感じていました。又カタカムナの檜崎阜月博士の静電三法を思い出しました。木炭埋設によりマイナスの電子を集め、イヤシロチをつくるというものです。

不明なことが多く半信半疑でしたが、大下先生がありもしないことを言っているという様子には全く感じられず、それならとにかくやってみようと思いました。もし本当なら獣害に苦しんでいる農村にとって大変な福音だと思ったのです。

あまりにも常識からはかけ離れた技術のため、さすがに変人を自認している私でも誰にでも話すことが出来ず、話せそうな人が来るのを待っていました。その私のところへ来てもらっている患者さんのなかで猿に困っていると言う方が現れました。それでその方に「猿よけのおまじないみたいな方法がありますが試してみませんか」とおそろおそろの切り出しました。そしたらその方はやってみて下さいと言ったことでした。

その方曰く、ジャガイモを作っているのが毎年猿に芋を掘り出されて食べられるのですということでした。早速その方のところの畑にビニール紐境界を設置しました。そして今設置して二ヶ月以上がたちます。そして無事ジャガイモが猿に食べられることなく収穫できたと言うことです。今年はその間畑には一切猿とカラスの姿は見なかったと言うことです。しかし隣のタマネギを作って出荷している農家のかたはそのタマネギがすべて猿に食べ荒らされて今年には出荷出来なかったと言うことです。その農家の方は嘆いておられたそうです。

その方によると猿を防げただけではなく、ジャガイモのでも良かったと言うことです。その方もその隣の方も今年は種芋を買わずに昨年とれた芋を植えたそうです。隣の方は今年のジャガイモはできがあまり良くなかった、種芋を買わなかったからだと思うと言われておられると言うことでした。しかし自分の所のジャガイモは今まで一番いいできだったの娘のところにも食べてもらったと言うことでした。

この実証実験が成功したので感動でした。そこでこの方の別のサツマイモ畑でも実験を拡大することにしました。ここではビニールヒモをオレンジ色ではなく白色のより安価なものに変えました。ここでも今のところ猿は入っていないと言うことです。モグラも見なくなりましたように思うと言うことでした。ところが境界外の

隣接する簡易ビニールハウスの中の土がモグラにやられてポロポロになっている言うことでした。そこでここにもビニール結界を拡張しようとはなしをしています。

この話をしていると、別の方が自分の家ではスモモを栽培しているのだが、これからの収穫時になるといつも猿と小鳥たちに食べられ、人間の口には入らないと言うことでしたので、この方の家のスモモにもビニール結界をさせてもらうことにしました。畑へいくとそのスモモの木は鉄条網やビニール網で囲まれ、アラームも設置されていました。私たちが近づくとピーッという警報音が鳴っていました。涙ぐましい努力跡でした。しかし話を聞くと全く効果が無く、毎年猿と小鳥にほとんど食べられてしまうと言うことでした。

そこで結果を設置しました。それから一ヶ月。今年はスモモを猿や小鳥に食べられることなく収穫できましたと報告をしてもええました。ただスモモを囲った袋が2つ破られて落とされていったということです。しかしたくさん収穫できて近所や親戚にもスモモを配ることが出来ましたと言うことで、私の所にまでおいしいスモモを持ってきていただきました。

一つ不思議なことがあります。これらの方へのこのビニール結界の内と外で身体の変化を試してみたいのです。簡単な方法です。一つは立ったままの前屈ともう一つはオリングテストです。

立ったままの前屈では前屈が深く出来るようになり、また大腿裏の引きつりの痛みが軽くなるのです。またオリングテストでは結界内のほうが閉じる力が強くなるのです。

これは気の世界では実証済みですが、明らかに結界内のほうが人間の身体の健康にいいのです。大下先生はこの方法は人間の健康増進にもいいと言っておられたと思いますが、それが証明されたように思います。そのように考えるとこの結界はもつともつと応用範囲がひろがって行く可能性を感じます。それは量子の世界に働きかけるということが日常生活のレベルでできる時代がはじまったということなのかもしれません。

この画期的な情報を提供していただいた大下先生とサラ・シャンティに感謝です。これからこの技術を地域に広げていきたいと思っています。
*私の中で不明なのが人間の身体にいい結果内の場合が野生の動物、猿やカラス、鳥にとってどうも不適なようなのです。これがなぜなのか説明が出来ないところが残っています。

比嘉博士はこの獣害対策の原理を著書の中で「サルに限らず鳥類を含め野生動物は電磁気的に量子的に対応して動いています。このバランスを整流し、野生動物をパニックにして撃退しようと言うことです。」と書いてもらっています。今の私にはこの言葉の概念と論理が理解できないのです。

近況とEM実践報告

南相馬市小高区

同慶寺住職 田中 徳雲

みなさま、こんにちは。いつもこの場をお借りして、福島原発から約十七キロ地点にあるお寺を中心とした、私の生活の報告をさせていただきます。今回も近況報告をさせていただきます。

小高区は原発の避難指示が解除になり、間もなく二年が経とうとしています。この二年で帰還した方は全体の二割五分程度です。同じような状況の他の地区は一割、或いは一割に充たないところもありますので、比べると帰還している方が多いとは思いますが。それは歴史と文化の町「おだか」と言われるくらい、人々はこの土地を愛し、伝統を継承してきたことが背景にあると思います。

しかし、帰還した方の大半は高齢者で、若い方がいないという大きな課題があります。それに伴い、各地域に根づいていた小さなお祭り（文化庁が取材に来るぐらいの昔ながらの小さな手作りのお祭りがいくつもありました）が、維持できなくなっています。それらは、土地の精神性と深く関係していて、地域住民は避難生活で失いかけて、はじめてその存在の大きさに気づいています。各々、何とかしたいとは思っています。地域の離散と、それぞれの家庭や仕事の事情を

考えると、非常に厳しい状況が続いています。もはや風前の灯火です。

この春、清水さんから『愛と微生物』という本をいただきました。この本は、EM菌の開発者である比嘉照夫教授と、鍼灸師で一日一杯の青汁と補助的なサプリメントだけで二十年近く元気に活動されている森美智代、映画監督の白鳥哲さんの共著です。それによると、原発事故後の福島には、微生物の力を借りて、放射能の被害を軽減し、大地を蘇生させようという目的で、EM菌を培養、散布している方が多数いらっしやること、拠点となるところも多数構築されていることが分かりました。

私も以前からこの福島の大地をより早く、より良く蘇生させるには微生物に大活躍していただくことが一番自然な考え方だろうと思っていましたので、早速連絡させていただきました。

とても丁寧に対応していただき、一緒にやりましたよというお言葉、早速比嘉教授はじめ多くのEM関係者の方がお寺に足を運んでくださり、「ご指導、ご協力の元、活性液の培養が始まりました。先日、境内全体に第一回目の散布を行いました。同時に炭や塩、セラミックスを効率よく使うことも教わりました。多くの人が集まり一緒にEM団子を作ってそれを等間隔（7m程度）に埋め込み、結界をつくりました。

詳細はここでは書き切れないのですが、大切な事は、何をするにしても必ずはじめには声を掛けて、微生物たちへの感謝とお願いを伝えていることです。これは可能な限り毎日やっていることです。見えない世界だけにその効果が目に見えるように現れると、祈りの大切さ、声かけの大切さを強く感じます。

日本政府は、EMを使って放射線量が下がるということ認めないそうです。でも、私はそんなことは全く気にしていません。環境が健全な状態になり、全体の免疫力が上がれば当然、自分達にとつても住みよい環境になり、自分達の免疫力も上がります。あれこれ論ずるよりも、まずは行動です。そして行動だけではなく、祈り行動すること。私たちは日々、選択の連続で生活が成り立っています。世界は多くの人が想ったとおりに具現化されていくのです。ですから想念の管理がとても大切ということですよ。

それからこの春、子どもたちの生活の力、自分で考える力を育てるための寺子屋を「ふくしま文庫」として開設しました。文庫としたのは、そのための教科書や絵本、資料的なものも創っていききたいと思ったからです。

現在の日本の学校教育は、多数の中で受身的なことが多く、指示があれば、それを上手にすることはできますが、その反面、自分の頭で考えて行動することに関しては、年齢の割には力がつ

いていないと思います。学校教育を否定するわけではありませんが、バランスを欠いていると思います。それは社会全体にも言えますね。

例えば、火を焚くこと。これは特に大切です。なぜなら、人間は火を焚くことによって進化してきたからです。火を生活に取り入れ、また神聖なものとして扱ってきました。しかし、扱い方を間違えれば火事にもなるし、滅びの火ともなります。戦争も原発事故も、火の扱い方を誤った故の大惨事です。



みなさんは、火を上手に焚けるでしょうか？ やってみればわかりますが、慣れていないと意外と難しいものです。また焚き火を囲む時間は、普段とは違う心の状態になると思います。遺伝子の中に眠る原初の記憶が蘇り、本当に大切なものを教えてくれるような気がします。

他にも、野山に入って食べられる野草や木の実を探すと、薪で「飯を炊くこと、川や海で上手に魚や貝を捕まえる方法等々、衣食住に関して、昔の人は当たり前に知っていたことでも、現代の子どもたち、我々親たちも知っているかというところ、怪しいです。でも、祖父母の世代は間違いなく知っているということ、今なら受け継ぐことができるギリギリのところだと思えます。

生活の力を持っているベテランの年寄りたち、自覚的に生活を切り替えてきた人たちに先生になつてもらつて、世代を超えて学び合える場を創造していきたいと思つています。それこそが、子どもたちの根っこを育て、何事も自分で考え行動できる力の礎になると思うのです。

原発の問題だけでなく、戦争、難民、環境破壊、食料、経済格差と、それらすべてに深く関係してくる人心（精神性、靈性）の荒廃等、数え上げたらきりのない、そして、各地域、各国がそれぞれに対応するだけでは到底解決できない大きな問題を、いかに自分の問題として受け止め、改善していくことができるか。これが私たち共通の課題です。その上で特に大事なものは、地球の声を聞くこと。そのような謙虚さを保ちながら、心と生活を調べていくことが、フクシマから学ぶ人としての進化の道だと思ひます。

その為に、今私に出来ることとして、保養と教育の場を創造していきたいと思ひます。保養の場所は、熊本県菊池市に廃村を買いとり水源を守る活動をされている正木高志さんの協力で、その廃村を直し活かした「はなとり文庫」です。まずはじめに自分の子どもたちに体験してもらつて、経験と工夫を重ねて人に勧めようと思つていきます。

その辺りのことも含めて、冬の間に少し想いをまとめてみました。『原発事故後の福島で生き

る』という小さな冊子が出来上がりしましたので、興味のある方はお声掛けください。

田中徳雲 090-2796-4066
〒979-2102 福島県南相馬市

小高区小高字上広畑二四六
(FBでも可です)

原発事故後、八年目を迎えて、紆余曲折ありましたが、七転び八起きになればと思つています。

EMと暮らしてはじめて

村井 和子

サラ・シャンティで4月、大下先生の講演とEMのドキメンタリー映画を観て、とても感動し俄然EMを始めたいと思ひました。そういえば旧知の吉彌信子さんがEM、EMと言つていたのを思い出しました。帰宅して彼女の名刺を見直すと「EM理事。近畿東部地区世話人」と書いてあるじゃあないですか！

早速、電話するとても喜んで下さり「何人が集めてくれたら、作り方・使い方の講習にお宅まで出向きますよ。」と。それで2回我が家で講習会をして頂きました。1回目は8人集まり、基本のEM活性液を作りました。活性液はEM1という種菌とそれを助ける善玉菌を塩と水で発酵させた物で、これがEMを生活に活かす素になり

ます。発酵までに数日かかります。発酵の時間はその時の気温、作った人の心、その時入れたEM菌の個性との総合的な化学反応で決まります。

だから、作る時は善なる心でEMに感謝して作る。EMは全てを聞き、感じているから。活性液が出来、各自使つてみて。成果や疑問が出た頃、2回目の講習会をして頂きました。

この日はサラ・シャンティの清水さんご一家も参加の11人。活性液を使つて浄化・結界・整流等をしてくれるEM団子と農業肥料になるボカシを作りました。

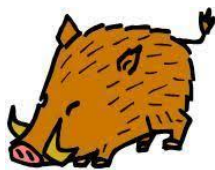
EMとは微生物の中の有用微生物群。つまり人間にとって良い働きをしてくれる微生物群。彼らは人類が生まれるより遥か昔から地球に存在し、今の生物達が生きやすい環境創りに貢献し続ける目には見えない存在。彼らに「愛と感謝」のお供え物をする和生活全般、物質面から精神面まで、人間の願いを叶えてくれる。今、問題の放射能も浄化。あらゆる害あるモノを良いモノ・良い波動に変えてくれるそうです。

古来から日本人の言う「八百万の神」ではないかとの説も。EMは量子学、重力波だそうで、その理論はとても難しいですが、使い方は簡単です。要は宇宙究極の真理・エネルギーは愛。それも無償の愛。それを自分も差し出す。「愛しています。感謝しています。」と「愛して使うとEMから無償の愛を頂ける！」

私はEM生活の初心者ですが、この2ヶ月に体験した成果を書いてみます。

* 結果

宅は山の中なので、敷地内の庭や畑にイノシシが入ってき。苔庭の苔は引き剥がして下のミミズを漁り。梅の木は、根元に強烈な糞尿を度々かけられて、殆ど枯れ。苔も糞尿をかけられた所は茶色く枯れてしまい。畑の柵は壊され白菜は全部食べられました。これをなんとかしたいと考えている時に、「EMは害獣の侵入を防ぐ」と書いてあるサラシヤンティのパンフを見たのが、今回の全ての始まりでした。



早速、EM団子を敷地の周囲に埋め、それを活性液を撒いて繋ぐという結果を築いたら、一切イノシシは侵入しなくなりました。活性液は月に1、2度撒き直します。

その時EMXゴールドも団子の一個だけに追肥のようかけておくと結果が強力になるそうです。室内にも団子を設置していますが害虫が入ってこなくなりました。以前はちよつと窓を開けると、ワーツと蛾や刺し虫が入って来ていました。

* 梅の木と苔の再生

EMXゴールドというサプリ。これは波動を上げるので、生き者は元氣になり食べ物も美味しくなります。車にもかければスーパーカーになると聞いたので、試しに枝が干からびて葉っぱが3枚しか出てない紅梅の木と苔の茶色い所に噴霧しておきました。今は殆どの枝は葉吹き、苔は一面緑です。

* 電子レンジの害、払拭

EMマルチプレート。これを電子レンジの中に置くと、あらゆる電子レンジの害を無くし。電磁波を良い波形に変換してくれるそう。今は安心して便利な電子レンジを使っています。

* 整流待ち

私が一番期待しているのは実は整流です。ポケるとかの脳の病氣・精神障害はある部位に必要なエネルギーが届かないから。それが整流されると回復するし、よりベストな働きになるのですが、まだボケはストップしていません。

EMのベテラン吉彌さんの体験も紹介します。

* 京都大原 三千院の参道脇の呂川の浄化

15年前、大原のバス停のトイレの臭いを吉彌さんがEMで消したのがきっかけで、地元の人々に依頼され、呂川にEMを20〜30ℓ月に1、2回投入し続けて1年後、悪臭もへドロも解消。今も女性の会がEMを各家庭に配布し続

けているそうです。

* 洛西ニュータウンの小畑川に蜚

この川は洛西ワースト1でしたが、10年前から吉彌さんの指導でEMを投入し続け。2、3年前から蜚が飛ぶようになったそうです。

* 和歌山の陶芸家の結果

熊野川の辺りに窯を構えるこの方は自分の作品にEMを入れて作成。そうした作品を敷地内のあちこちに保管。そして数年前の大水害の時、彼の家にも土砂が押し寄せましたが敷地の前でピタリと止まったそうです。EMが入った作品をあちこちに置くことで自然に結果が張られていたのです。その時の奇跡の写真も私も見せて頂き、地盤の脆い六甲山に住む我が家の光明になりました。

伊勢便り No.17

吉田 博明

三重県南部の、熊野古道(伊勢路)に沿った井田海岸には、国道をはさんだ山側に「道の駅 紀宝町ウミガメ公園」が整備されています。施設内には、ウミガメに直接触れることができる飼育棟、魚類に関する資料館が併設されています。

今年7月22日、ウミガメが産卵することで知られた井田海岸で、2年ぶりにアカウミガメの産卵が確認されたと報道されました。卵120個は観察員によって、地元の井田小学校にある保護施設に移され、現在、60日後の孵化

が待ち望まれていると伝えられました。この56年、ウミガメの誕生は見られず、前回(2016年)の産卵では、施設に移されたものの、すべて、無精卵だったため、孵化しなかったそうです。このため、地元では久しぶりの子ガメ誕生を、今から固唾を飲んで、見守っていると、関係者は話していました。

一億年来、地球上に棲息し、長寿のシンボルとして親しまれてきたウミガメは、装飾品としての乱獲・海洋汚染・生息地の消滅などで、激減し、現在では絶滅危惧種に指定されています。特に、不法投棄されたペットボトル・レジ袋・弁当箱などのプラスチック製品などの海洋汚染は、ウミガメにとって、大きなダメージになっているそうです。



2018年の国連の報告では、各国で投棄されたプラスチック製品が世界中の海に拡散され、熊野灘沖のはるか太平洋上には、ごみベルト海域が形成され、しかも、その面積は日本国土の4倍に達しているそうです。専門家は、これらのプラスチック製品が紫外線や波の力で劣化し、0.3mm以上3mm以下のマイクロプラスチック化した微粒子が海洋汚染の主な原因だと指摘しています。また、マイクロプラスチックは、エサと間違って捕食した魚類の体内に蓄積され、最終的に、食物連鎖によって、海産物を摂取

する人体への健康被害まで高めてきています。

環境庁の発表では、日本近海でのマイクロプラスチックによる海洋汚染は、世界平均値の実に2.7倍に達していると伝えました。さらに、国連の報告書では、このままプラスチック製品を使用し続けると、2050年までにマイクロプラスチックの総重量は、全世界に棲息している魚類の総重量を超えてしまうと警告しました。

1906年、明治政府は、全国の神社を原則一町村に一社とする神社合祀令を推進しました。この結果、全国に存在していた19万社の神社は4年間で14万社へと、20%減りました。三重県では、熊野古道(伊勢路)沿いを含め、2042社から831社へと、全国平均を大幅に上回る40%が削減されました。

神社合祀政策は、政府が前年、国家予算3億円の6倍に当たる18億円もの膨大な借入金をもとにした日露戦争にはかるうじて勝利を収めることができたものの、戦後、賠償金が取れなかったこと、更に、軍備を増強したことで、国家財政が逼迫していた事情が反映されました。

政府は地方自治体にまわす予算不足をカバーするため、神社合祀後の跡地は農地への転用、資産の売却を認めたため、地方自治体にとっては、新たな収入源とすることができました。また、政府にとっては、日露戦争での戦費をめぐって

くすぶり始めていた戦争責任の追及をかわすため、人心を結集させる新たな目標として、伊勢神宮を頂点とした「神道」を国家神道として確立したいとの思惑が込められていました。

この神社合祀令に真っ向から反対運動をしたのが、和歌山県出身の博物学者 南方熊楠(1867~1941)でした。南方熊楠は博物学をはじめ、植物学・民俗学・宗教学など、学位や専門分野にとらわれず、しかも、独学で学び、世界的著名な科学雑誌「ネイチャー」に「東洋文化の特長」など、歴代最高となる50本以上の論文が掲載された「知の巨人」として知られていました。

熊楠は、33歳の時、欧米での14年間に及んだ自然観察・調査活動を終えて帰国、熊野古道(紀伊路)の入口、紀伊田辺市に居を構えました。彼にとって、動物・植物や粘菌など多様な生き物が生息する「熊野の森」は自然観察や標本を採取するための絶好のフィールドでした。

ここで、熊楠は、数千年来生き物たちがお互いに影響し合い、つながりながら、生態系を保ってきた原生林を観察しながら、「世界にまるで不要といわれるものはない。」との哲学的真理を確信しました。

また、奥深い山々と人々が自由に利用できる里山との境界に創建された神社が、滝や巨岩など森羅万象を神様として祀り、人々の生活に

密着した文化・伝統を継承しながら、自然と人間社会とを結ぶかなめとなってきたことへの認識を深めました。

このことから、彼にとつて、神社合祀令は「鎮守の森」の破壊だけでなく、神社で継承されてきた文化・伝統まで衰退させ、ひいては人々の精神的バックボーンを萎縮させる暴挙として、とても許せるものではありませんでした。すぐさま、反対運動に乗り出した熊楠は、当初、地方紙や全国紙への投稿を繰り返す草の根活動に着手していたものの、思う通りの成果を上げることにはできず、忸怩（じくじ）たる思いの日々を過ごしていました。

しかし、この流れを大きく変える転機となったのが柳田国男（1875～1962）との出会いです。民俗学の創始者 柳田国男は、当時、内閣法制局参事官の要職についていましたが、熊楠とは、すでにお互いの論文や著書を通して、親交を深めていました。

この二人の関係を象徴しているのが、熊野古道（伊勢路）沿いの引き作りの大楠（樹齢1500年 幹回り15.7m 樹高35m）の伐採阻止でした。紀伊半島最大の威容を誇っていた大楠は、もともと阿田和神社に合祀された引作神社（三重県御浜町）の境内にそびえていました。

このことを知った熊楠が柳田国男に協力を求め、関係者が三重県知事に働きかけたことで、伐採

を阻止することができました。

1918年、大楠伐採阻止で勢いづいた熊楠の反対運動は、帝国議会で神社合祀令が廃止されたことを受けて、9年間に及んだ活動に終止符が打たれました。

熊楠は、反対運動の中で、当時日本人になじみのなかった「エコロジ」という言葉を使いました。現在、「エコロジ」は生態学と訳されていますが、もとはギリシャ語が語源の、家を表現した言葉で「家を知る」という意味だったそうです。

また、類似の「エコノミー」は、経済と訳されますが、本来は、「家を管理する」との意味だったそうです。従って、家を知らなければ、管理することができないように、「エコノミー」は「エコロジ」に従属する言葉でした。

1972年、ノルウエーの哲学者アルネ・ネスは環境への取り組みについて、「シャロー アンド ディープ エコロジ」と題した論文を発表し、次のように述べました。

環境は、単に、人間中心に生きる浅い（シャロー）対応では、永遠に良くならない。人間は「自然の存在」で、自然を構成する一要素だとの認識に裏付けられた深い「ディープ」対応に切り替えるべきだ。

アルネ・ネスの論文と前後して、環境汚染をテ

ーマとしたアメリカのレイチェル・カーソン「沈黙の春」、日本の有吉佐和子「複合汚染」の著書が世界の人々の関心呼びました。

経済優先の工業化・情報化は、次第に「エコノミー」を暴走させ、「エコロジ」を修復不可能まで傷つけてきました。本末転倒ともいえる価値観のまん延は、物質的・金銭的充足と引き換えに、環境だけでなく、健全な精神まで萎縮させ、国政・企業などでのモラル低下・教育・家庭の荒廃など、あらゆる面での人間社会の劣化を引き起こしています。

世界に先駆けた熊楠の環境への取り組みについて、日本と日本人を最も深く見つめた人からできた日本人の可能性を極限まで追求した天才だった。」とたたえました。

先の見えない閉塞状態が続く中、私たちがこれから進む未来へのヒントは、南方熊楠の生涯の中に凝縮されているのではないのでしょうか。

講座・教室めぐり

- ① 6月22日の市川先生のヴォイススキャン体験報告は板澤知子さんから。
- ② 火曜午前の姿斉クラスのレポートは礮田 康子さんから。
- ③ 第2・4木曜午後のでん子chan体操のレポートは景山薫さんです。

市川加代子先生のおもしろ講座

簡単お手当 ヴォイススキャンで

計測を受講して

板澤 知子

4回シリーズの2回目は、体の状態をお手当で整えて、声から発するエネルギーがどう変化するかを計測していただきました。

その前に、市川先生による蛾眉氣功のクラスにも参加し、経絡を刺激して気の流れを整えることからクラスが始まりました。

蛾眉氣功も初体験。

頭頂とお尻、右手と左手など、点と点を結んで引っ張り合い、点と線、また面を意識しながら、体をゆっくりと動かしていきます。

点と点、線、面を意識してゆっくり動かしていくと、今まで使っていなかった部分が、伸びたり縮んだりして、刺激を受けているのを感じます。ゆっくりとした動きなので、じわじわと効いて、汗が出てきます。

エネルギー循環が活発になった時の爽快感がとても心地よく、意識もクリアに。

蛾眉氣功では、体の使い方を学ばせていただきました。

ヴォイススキャンの計測はシリーズの2回目。私は2回目からの参加です。

今回は、自分のエネルギーとお手当の関係を計測してくださいました。



ヴォイススキャンは体から発せられる周波数を声からスキャンする計測器。

その時々体の状態をグラフとして目で見て知ることができます。

まず、何もしていない状態で計測した時のエネルギーの状態をみて、市川先生が測定結果と望診などから、エネルギーをあげるためのアドバイスをしてくださいました。

その後にはビワの葉の温湿布でお手当。

お手当は、人の手の温もりと温湿布の温かさがとても心地よく、人を癒すエネルギーを持っているのを感じます。

横になっているとフワフワと宙に浮かんでいるような心地よさで無の状態に。優しさのあるお手当のなんと心地よいこと。脳がリラククスしているのがわかり、心も体も意識も癒されると、体と意識がシャキンとします。

こんなに優しいお手当なら、日常に取り入れたい！そう思わせるほど心地の良いお手当でした。

さて、お手当の後に再びヴォイススキャンでエネルギーを計測。するとグラフが変化してい

るのが見てわかります。

少し弱いエネルギー状態だったのが、強さが出て状態が上がっているではありませんか。

体とエネルギーの循環がよくなると、自分のエネルギー全体が高くなる。そのことを目で見て理解することができ、とても勉強になりました。

この講座を受講できてよかったです。出会いに感謝。ありがとうございます。

姿音と私

磯田 康子

「よろしくお願ひします。」

今朝もこの一声から岡本正子先生の「やさしい姿勢クラス」姿勢運動教室が始まります。何百回この声の響きを聞いてきたことでしょうか。岡本先生のご指導の下で心身をほぐしはじめてからいつの間にか十三年が過ぎ、気がつけば来年は八十歳です。



その間には、約十年近い夫の闘病生活の看病。入院手術

退院再入院、やがてホスピスへ、時が流れました。この長い歲月、不思議なことに無欠席に近い状態で教室に駆け込み、体を動かし、その間に心が安らぎ、終にはマットに横たわるや睡りに入りました。

自分以外の何者にも介入されない「無」の時。

これだ！私を一番大切に扱わなければ先行きの見えない夫を最後まで看取れないと、受け止めました。

運動の内容はアクトロボットのように難しくもハードでもありません。まず基本の動作から始まりです。そこでその日の体の具合を自分で知ります。次の動作に移りますが決して痛みや違和感のある動きまでやりすぎない、という鉄則のもとで体の歪みを少しずつ整えていくのです。

中ほどで岡本先生「どなたか具合の悪いところはありますか」とよく聞かれます。「腰が痛い」「股関節が引きつる」「足の親指が曲がりにくい」などなどを申し出ると、その発言に添って最良の改善方法の運動動作を行ってください。そして「家でも何度でも行って下さい」と言葉を結ばれます。

姿勢という、ゆっくりゆっくり時間をかけながら体をかけながら、繰り返し繰り返し自分で問いかけながら、体を整えてゆく自然体の考え方や動作が私は好きです。おそらく、スローテンポ人生好みの生き方にぴったり合っているからでしょう。創始者の「加減にゆらぐ」生き方に共鳴しながら、これからも心身の憩いの場サラシヤンティに通い続けます。

てんこchan体操って何？

景山 薫

「てんこchan体操」の講座が始まって1年が過ぎました。私は景山薫と申します。サラ・シヤンティでは、イベントやシリーズレクチャーなど、観音企画主催として何度も開かせていただいたので、ご存知の方もおられるかもしれません。今回は一参加者としてお話をさせていただきます。

「ある日、起き上がれなくなりました」

数年前から慢性的な貧血、腰痛、四十肩、浮腫みなどに悩まされていました。血流が滞り、体は硬くなり、満身創痍でポロポロ…。

2年ほど前のある朝、まともに歩くことができなくなりました。ベッドからサツと起き上がることができず、足の裏までパンパンの浮腫みと、重だるい最悪の体調。「命が危ない！！」と、危機感をおぼえました。

「まず血流を良くする(1)」

「どんな病気でも「血流」が良くなれば改善する」と聞いてはいたものの、筋力が落ち、既に通常の運動ができる体力はありませんでした。そこで、以前に体験レッスンを受けたことのある医療体操を思い出しました。

「あれなら寝ながらできるし、血流を良くすることが出来るはず。」と、紹介してくれた上野万弓さんに連絡をとりました。

「驚きの医療体操」

「てんこchan体操」は、手技療法の治療家として活躍された足助次郎先生と、奥様の照子先生直伝の体操です。

つい先日、古武術の達人である甲野善紀さんが30年にわたって足助先生の教室に通っておられたことを知りました。身体を知り尽くし自在に操る甲野先生が、この体操を評価されていることに、心底納得できます。甲野先生のツイートからいくつか引用させていただきます。

『足助次郎先生の深い経験と慧眼によって組み立てられており、足の指をわずかに動かす程度であっても、(略)時に驚くような効果を挙げている。』

『安静を言い渡されているときでさえ、(略)健康を回復することができるという独特の体操法だ。』

『体操など身体を動かすことは、身体が回復してから』という世間一般の常識を破るもの』

「サラ・シャンティで講座開設」

そんな折、ちょうど上野さんがインストラクターになったタイミングで始まった新教室への参加を決めました。ところが時間帯や場所の関係でコンスタントに通うことができずいたところ、サラ・シャンティさんが「第2・4木曜日の午後の枠が空いたけど、何かする？」と、お声がけくださったのです。

これ幸いと上野先生にお願いし、講座開催にこぎつけることができました。そして「自分の命がかかっている」という気持ちで、「とにかく参加すること」を先ず優先しました。

「真剣に取り組んでみた結果」

一見すると地味で何をやっているのかわからない体操ですが、実際にやってみると、これがなかなかのやり応えです。東洋医学的な観点からも考案されているため、下記のような効果が高いと感じました。

- ・ 内臓（特に腸）の活性化
- ・ 血流の改善
- ・ 筋肉や筋などの癒着やこわばりが柔らかくなっていく
- ・ 骨格の歪みが正しい位置に戻っていく



「私に起きた変化」

まず驚いたのは冬に感じた変化でした。

- ・ 腰痛が出ない
- ・ 冷え症が改善、それどころか寒さを感じないので薄着に。
- ・ 正座ができるまでに回復
- ・ 肩の可動域が広がっている

そしてこの夏、血液検査の結果を見てさらに驚きました。

なんとE判定だった貧血が、

B判定、つまり正常値近くまで回復していました。同時に35度台だった平熱が36.5度と、子どもの頃の体温に戻っています。他にも細かい変化はたくさんありますが、書き切れません。

「みんなに体験してほしい」

私の当面の目標は、通常の運動を始めることが出来る水準まで体を戻すことです。でも、そこに到達したからといってこの体操を止めることはないでしょう。

何故なら、全く別の目的と仕組みであることを実感しているからです。ですから、体に不具合がある人だけでなく、専門的に体を扱う人も含め、全ての人に「やってほしい！」と思っています。

この体操を続けることで、多くの劣化や偏りを予防改善することができると確信しています。



編集後記

清水和子

暑い8月でしたが、皆様はどんな風に過ごされましたか？熱中症などという言葉は最近聞くようになりましたが、天候が変わってきて、夏の気温も上がってきているのでしょうか？

この頃はシトシト降る雨はあまりなく、降ると、土砂降り、地域によっては大雨、洪水、土砂崩れのようなことになるようです。妙法寺というところに畑を借りていますが、今年は長雨でいつもならほっておいてもどんどん生ってくれるミニトマトもやられてしまいました。EMや神谷農法などをきっちりしていればこういふことにはならないそうです。まだまだ中途半端で半農半サラシャンティまでいけません。

息子が手伝っている西区の田んぼでは、稲が元気に育っています。今年の収穫ではむじろ一年分のお米を分けてもらいお米の自給自足は達成の予定。

岡山や四国など、大雨の被害にあわれた方々はまだまだ復旧途上。近隣はもちろん東北などからも恩返しにといいつて駆けつけて泥かきなどをしている方もあるようです。

友人の吉澤さんのグループも311のあとと復旧作業のほかに、石巻で寄付された車でカーシェアリングを立ち上げて活動を続けています。そのノウハウが今岡山ほか各地の被災地で役立つようです。



吉澤さんのグループ

オープンジャパンURLhttp://openjapan.net/